

「登戸・遊園ミライノバ」の取組について

■「登戸・遊園ミライノバ」とは



川崎市と小田急が協働して、区画整理事業において道路や宅地として使用を開始していない市の管理用地を活用した取組として

2021年7月 「登戸・遊園ミライノバ」の取組を開始

●主な取り組み内容

1. まちの賑わいづくりの取組
2. テナント出店につながる取組
3. 地域や共創パートナー等を巻き込んだ取組

「イツモの日＝日常」

定期的にキッチンカー等が出店する

「ハレの日＝非日常」

地域の方々や共創パートナー等と
イベントを開催

▼イツモの日の取組エリア



駅前エリア

駅前のスペースに、キッチンカーをはじめとした移動型店舗が並び、日常的な賑わいや交流づくりを行います。

空き地エリア

街なかの暫定的な空き地。「関わりたい人を大切に場所」として、このまちに住む人と訪れる人の関わりを大事にしたい人や地域の賑わいや交流を創りたい人が集まる場所です。



※B・C・Eエリアについては、現在は供用開始のため閉鎖

「登戸・遊園ミライノバ」の取組について

■ 駅前エリアの活用

駅前の賑わい創出や商業活性化を目的として、駅前エリアをキッチンカーが日常的に出店できるスペースとしている。



▲キッチンカーに来たお客さんで賑わう駅前エリア

■ 高架下エリアの活用

道路として使用開始される前の高架下エリアを活用して、住民発意のミニイベントを実施。（R5年度のみ）

※現在は道路として使用開始しているため閉鎖



◀ ストリートアートパフォーマンス「ノボリトリート」の様子

▼ 「住民本屋」の様子



「登戸・遊園ミライノバ」の取組について

■空き地エリアの活用



▲園芸部のチラシ

「イツモの空き地」にて「のぼりと園芸部」が活動。

■川崎市職員や地域住民など
約120名(7月8時点)

■毎週月、8:30~10:00
第3土 10:30~12:00

■空き地エリアを中心とした公共空間の
みどりの整備、お手入れ、たい肥作りなど



▲「イツモの空き地」の様子



▲日よけを設置したパーゴラ



▲お花の手入れ・野菜の収穫・おしゃべりなど各々の活動をする人々

のぼりと園芸部のビジョン

■「もっと空き地が居心地が良くて、活用される交流の場となるには??」が出発点。

■目指すのは、「住んで幸せなまち」

・緑の価値の発見やコミュニケーションを通じた
「登戸なんかいいよね👍」。

・まちに多様な「好き♪」がたくさん溢れている、
「本当に住んで幸せなまち」にしたい。

「登戸・遊園ミライノバ」の取組について

■ミライノバ・ハレの日（イベント）



2021～2023年まで毎年イベントを実施。右記はミライノバ・ハレの日2023の概要

■ハレの日 開催テーマ

- ・『知りたいな、登戸のまち』
- ・登戸・遊園エリアに長く愛される地域文化に触れ、これからの地域を盛り上げるグルメ・アートなどが楽しめるイベント

■開催日

2023年11月12日（日）

■実施主体

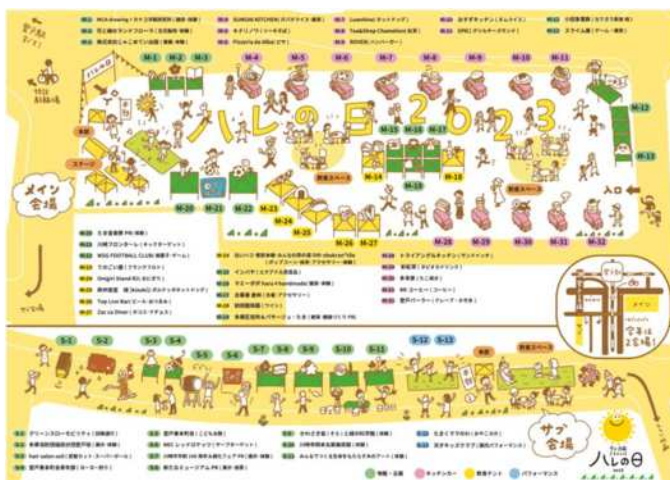
主催 ミライノバハレの日2023実行委員会
（川崎市、小田急電鉄、川崎市多摩区商店街連合会、区役所通り登栄会商店街振興組合、民家園通り商店会、登戸東通り商店会、神奈川県飲食業生活衛生同業組合、登戸そだて隊、のぼりとゆうえん隊、登戸を良くする地主の会、地域の方々）

協賛 21社

▲ミライノバ・ハレの日

▲イベント会場の場所

2023チラシ



▲ミライノバ・ハレの日2023会場図



▲ミライノバ・ハレの日2022会場図

■主なコンテンツ

キッチンカー・飲食ブース、物販、ワークショップ、スポーツ体験、ステージコンテンツほか

■来場者数

約10,000名（目標：約7,000名）

■当日運営スタッフ

計38名（実行委員5名 事務局20名 ボランティアスタッフ 13名）

「登戸・遊園ミライノバ」の取組について

■ミライノバ・ハレの日2023（イベント）

道路空間や広い管理用地を活用して、地域の方々が活躍するイベントを開催。



◀▼宅地として使用開始前の広い管理用地を活用して、キッチンカーや物販・ワークショップブース等、多くのお店が出店した他、町会の和太鼓展示やダンスステージ等、地域の方々の発表の場にもなった。



◀▲登戸2号線を封鎖して人工芝や什器の設置など、人々がくつろげる空間を演出

